

高 明訓 同 窓

発行所
新潟市北山1037番地
新潟明訓高等学校同窓会
会長 渡辺 惇 夫

- 綱 領
- 一 母校愛精神の昂揚
 - 二 伝統保持と敬愛
 - 三 会員の連繋と相互扶助

ご挨拶

— 同窓会の活性化と

母校の発展を願って —



同窓会長
渡辺 惇 夫

日増しに秋の深まりを感じられる頃となり、恒例の同窓会総会開催の日を迎えることとなりました。同窓会々員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのことと拝察し、心からお喜びを申し上げます。

平素は同窓会の諸活動並びに、母校の発展向上のために暖かいご理解とご協力をいただき衷心より感謝を申し上げます。お蔭様で我が同窓会も多数の会員を擁し年々活動実績を積み、母校の発展とともに内外に高い評価を得られるに至りましたことは我々の大きな喜びであり、誇りでもあります。このことは、偏に会員皆様の変らぬ母校愛と日頃

のご精進とご努力の賜物であり、加えて同窓会に対し学校ご当局や関係者の皆様のご支援があつてのことであり、ここで改めて心からお礼を申し上げます。これからは我々他校にはない母校の建学の精神を大切に継承し、同窓会員としての誇りを持ちながら引き続き同窓会の発展充実のために努力邁進していかねばなりません。ご承知のように、我が母校も大正10年の創立以来、実に八十有余年の歴史を有し、多くの先輩の皆様の努力のお蔭で他校に誇れる立派な伝統と実績を積み重ねて参りました。そして一昨年は創立八十周年記念事業の一

環として、母校にとって世紀の大事業とも言える校舎他全施設を新潟市北山の地に全面的に移転し、新生新潟明訓高校として大きな第一歩を踏み出すことが出来ました。そして更に来年の4月には新潟明訓中学校の新設も予定されており、その発展振りは目を見張るものがあります。

我が同窓会としましてこの母校の発展に相応しい体質の強化と活性化が今強く求められておりますし、同窓会員全員がこのことに向けた意識改革と努力が必要であります。幸いにも我が同窓会には、年代を問わず優れた人材も多く、広く各界各層に於いて指導的立場で活躍しておられます。この多くの皆様から母校の現状を充分にご理解いただき、大きな関心を持っていただくことにより同志的意識を高めることができ、共通した目的に向かって協力的体制を確立することもでき、それが同窓会の活性化と発展に繋がっていくものと思えます。そして、このことが母校

の発展にも大きく寄与するものと確信いたします。更に今、同窓会の活動や運営の中心となつている常任委員会の強化拡充も急務課題であります。若い世代の同窓会員の皆様からも積極的に活動に参加してもらい、年1回の総会も魅力

綱 領

- 一 母校愛精神の昂揚
- 二 伝統保持と敬愛
- 三 会員の連繋と相互扶助

幸福と快楽



理事長
伴 昭 彦

同窓会員の皆様にはお変わりもなく御元氣でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

戦後六十年を経て私達の周囲には多くの物が溢れ、文明生活の中に暮らしていると思うのですが、私達は六十年前にくらべて幸せになつたのでしょうか。嘗て國學院大学教授でおられた平井直房氏は、見かけだけの物質的繁栄の谷間に空虚で無感動な日々を送

あるものにすべく創意工夫をし、努力すべきであります。我々は限りある人生でありますが、明訓同窓会と母校明訓高校の存在は永遠であります。その母校にご縁を得た我々同窓会員はこれからも母校の発展を願い、会員同士の絆を一層強くすることが自身自身の人生を豊かにすることにも通ずることでもあります。何卒よろしくお願い申し上げます。と同時に同窓会員の皆様の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げご挨拶いたします。

りがちな私達にとって生きがいの発見は深刻なものであると云つておられました。大阪府立大学教授の森岡正博氏は、モノに囲まれて苦しみから遠ざかり、安定した生活を手に入れ、気持のよいことを沢山経験できるようにしたのに、心の底にはほつかりと空洞があいている、気持ちはいいのだけれども「よろこび」がない、と云つておられます。

この心の空洞に気づき考え始めると怖くなり不安になりそこから目をそらすようになります。この社会には、それから目をそらすためのツールが沢山用意されています。テレビ、ラジオのお笑い番組や、パチンコ、グルメ、カラオケなどさまざまな娯楽にひたることが出来ます。

安定した生活をし、気持ちのいいことにひたつて自分を忘れることができます。このように、つらい苦しいことから逃げる仕組みを森岡正博氏は「無痛文明」と名づけておられます。無痛を追い求めることによつて自分自身を見失わない、眠らせ、大事な問題を考えさせないようにしてしまいます。その結果、今生きているという実感を少しづつ失なつてゆき「よろこび」更には「深いよろこび」がない状態になつてしまいます。

生活の苦しみに対して「楽しみ」「快楽」を求めればそれで「幸福」と云えるでしょうか。幸福と快楽とは全く違うと云われるのは元京都大学総長平沢興先生です。幸福は公開的で明らかなもの、これに対して快楽は秘密と結びつき易く、秘密であればある程快楽の度合いが高まることもあります。一方、幸福は持続的であるのに対し、快楽は瞬間的に燃え上がり燃え切つてし

まうような激しさがあがりかえって苦痛がやってくるかと云われます。それは幸福の喜びとは無縁のものであることは明かなことです。

苦しみから逃げずにこれを引受ければそれまでの自分は根本から崩壊しますがそのあと「新しい自分」が再生することになります。つまり生きがいを感じるようになれるということです。ウイーンの精神科医フランク博士は、人生の意味のとりえ方、つまり

明訓の今、そして未来



学校長

宮沢 稔

今回は、生徒諸君と学校の最近のようすについて書かせていただきます。

今年のこの欄で、「新校舎の冷房のきいた教室で従来よりも集中して勉強に取り組んでおり、来春の大学進学の結果が期待されているところ」と書きましたが、今春は実際に期待どおりの結果になり、進学面で大きく躍進しました。昨年に比べ、全体の進学率が五ポイント伸びて七十八・四パーセントに、希望の多い国公立大学への合格者が一気に

生きがいとして、第一に、世のため国のために尽くすこと、第二に、人に感謝し自然や芸術に感動すること、第三に苦悩の中に生きる価値を見出すこと、を挙げておられます。生きがいは他から画一的に与えられるものではなく、自分にふさわしい存在の意味を心に抱くことがかけがえない人生を生きていくこと、同窓会員の皆様の御発展を祈念いたします。

に五十二人増えて百二十五人になりました。百二十五人は、本校始まって以来の最高人数です。また、難関といわれる国公立の医学部医学科に昨年より三人増の五人が合格しました。やる気になってがんばれば、明訓生はこういう素質と力を持っているんだ、ということを外に示してくれました。

部活動の面でも、次々と全国レベルでの活躍が見られました。中でも、陸上競技部が、インターハイ(全国高校総合

体育大会)で、トラック部門全国第二位という偉業を達成いたしました。これまで新潟県はもろろん、北信越全体でも成し遂げることができなかった快挙です。千六百メートルリレーで二位、二百メートルで三位、八百メートルで五位と次々に上位入賞し、学校総合でも全国第四位と大健闘しました。

また、剣道部が四年ぶりに男女アベックでインターハイに出場し、女子はベスト八まで進出しました。さらに、新たに一つづつあった弓道場での練習が実って、弓道部も七年ぶりのインターハイ出場を決めました。文化部からも、放送部、写真部、囲碁部が全国大会に進出し、放送部は奨励賞を、写真部は優秀賞を獲得しました。

さて、今、明訓では、来年四月の明訓中学校の開設、中高一貫教育の推進に向けて、学校をあげて取り組んでいるところ、中高一貫教育は、社会の激しい変化の中で、明訓がその歴史と伝統の上に、未来においても県内私学の雄として更なる発展を遂げていく上で、ぜひとも必要なものであるという観点から、二年前に理事会、評議員会で決定され、それを受けて具体的な検討が行われてきました。

この八月には、県知事の正式な認可もあり、校舎の一部

関西新潟明訓会 創立十五周年総会開催

関西新潟明訓会創立15周年総会が平成18年9月9日(土)午後6時、大阪市曾根崎の「多幸梅」で開催されました。渡辺会長が公務出張中の為、副会長児島が出席いたしました。学校側より伴理事長、宮沢校長が出席され、総勢20名で開会されました。

寿氏より「会設立より15年にもなるが、会員の方の参加が少なく、苦勞する。野球が甲子園に来ると、皆さんの出席がふえるので、がんばってもらいたい」と挨拶がありました。

次に、会長代理として本島より、設立に係わった一人として当時の状況を報告いたしました。

当時現会長の安城氏に会長職を引き受けてもらう為、当時の校長藤田久喜氏と前同窓会長長水野幸作氏が、安城氏にアタックしたのが、うまくゆか

ず、たまたま、児島の店(割烹網元)に安城氏が新潟に来ると必ず寄られる事がわかり、児島が口説き役として京都で安城氏と会う事が出来、その際、現事務局の片野氏も同席し、スムーズに会長を承諾して戴き、平成3年5月に関西新潟明訓会が設立されました。

その後、本校野球部が小林幹英投手を主軸に甲子園初出場を決めた事も幸いし、色々な方より感謝された事等をお話いたしました。

続いて、伴理事長よりご挨拶



新潟明訓高等学校

第五回(昭和二十九年)卒業生
卒業五十二年目の学年会

擗を頂き、同窓会の皆様からは常々大変お世話になっておられるお礼と、人集めの秘訣などお話しに生まれ、また、宮沢校長からは来春から中学校が新設される事、学校業務の現状など報告を頂きました。

持参の「越の寒梅」なども、ふるまわれ、皆さん時のたつのも忘れ、楽しいひと時を過ごしました。

終りには、明訓高校校歌を全員で合唱し有意義な会となり、名残り惜しみつつ閉会となりました。

しかし今こゝに元氣な顔を見せていても、且て大病を経験したり、或いは大きく変動した時代の中でとことん辛酸を嘗めた人も多く、さり気なく語りながらも、しみじみとした表情が滲んでいます。何しろ東京オリンピックの十年前、日本の経済復興は未だ手探りの時代の卒業だったのです。

意の笑顔、笑声の中で遙かな青春への回想と、その後の人生が彷徨する一夜となりました。

全員寝静まったのは一時をかなり廻っていました。(几帳面な幹事の方の巡察によれば)

翌日は前夜の奮斗にもめげず、早やばやと名湯でゆつくと汗を洗い流し、八時からの朝食ではまたもかなりの数のビールびん・銚子が転がりました。(皆さん元氣がい、こと)

親切な心こもった応待をしてくれた旅館に感謝し、十時に出発、途中「阿賀の里」で新潟みやげをそれぞれ手に、新潟駅前正午近くに到着しました。

こゝで最後の仕上げに、日本そば店でヘギそばで乾盃をし、お互いの健在と再会を約して別れました。

お陰様でどうやら好評のうちを終ることが出来た様になります。とにかく事故や急病人が出たりしなかつたのは幹事・事務局一同何よりもほつと致しました。

なお写真に堪能な方が何人も居られ、全員写真を始め、実にきめ細かに様子が記録された事は特筆して良いと思います。

(菅井記)

昼間第五回生(昭和二十九年卒)の私達が第十七回目の学年会を開催したのは、六月十七、十八日、会場は三川温泉の「新かい荘」でした。このところ隔年開催が慣例になっておりまして、今回の幹事を仰せつかった一人として、その様子について甚だ雑文ながら記してみます。

関東・関西等からの八名の参加を含め総勢二十四名、午後二時に旅館の送迎車で勇躍出発、天気も先ずは良好です。お互いに年相応の顔になったとか、こゝ迄来ますとお定まりの話題になる体調の事など言い合いながら、途中、高校の時に日帰り旅行で訪れた「將軍杉」に立寄りしましたが、

すでにいさゝかビールのまわった頭を振りながら、どうにも覚えがないなどと言う人も居ます。七十才……。無理もありません。

旅館は今日は他の客も居らず、緑と自然に包まれた静かな雰囲気の中に全て借り切りの状況というのは有難いことでした。

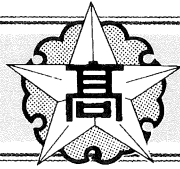
物故者(約二割です)への黙祷等のおと、六時から宴会開始、アルコールがまわるにつれてお互いに当時の「地」がモロに出始め、言いたい放題、飲み放題、最後の男性オンリーの学年だったこともあり、飛び交う話題は色気に乏しい代りに、豪放、痛快そのものです。

頃合いをみて中締めをし、律儀に校歌を歌い、二次会は部屋を代えてカラオケ付きの「大無礼講」、酒のサカナになる者、乱れる者、大ボラを吹く者等々、全て好



第17回 学年会
新島明訓高等学校 第5回卒業生

学 校 高 案 内



今年 の 合 格 状 況

国公立大126名(現役生のみ)合格

新潟大57名合格と健闘！
国公立大医学部医学科に5名の
現役合格！
難関国立大では北海道・東北・筑波・
東京外語・首都大東京・横浜国立・
金沢で計18名の現役合格！

国公立大学	合格者数	私立大学	合格者数	私立大学	合格者数
北海道旭川医科大学	3	酪農学園大学	4	立教大学	8
帯広畜産大学	1	東北福祉大学	4	立正大学	5
岩手医科大学	1	国際医療福祉大学	5	早稲田大学	9
東北大学	4	獨協大学	6	神奈川大学	26
秋田大学	2	東京国際大学	2	関東学院	5
山形大学	4	文京学院大学	6	敬和学園	1
福島大学	3	青山学院大学	13	新潟国際情報	9
茨城大学	2	青学大学	8	新潟薬科	34
筑波大学	4	北里大学	9	新潟青陵	12
宇都宮大学	1	国立音楽大学	1	新潟医療福祉	26
群馬大学	1	慶應義塾大学	4	金沢工業	10
埼玉大学	1	工学院大学	3	北陸学院	3
東京大学	1	駒工大学	5	同志社	9
東京大学	1	芝浦工業	9	立命館	13
東京大学	1	上野学園	4	近畿大学	1
横滨国立	3	成城大学	4	関西学院	2
新潟大学	64	専修大学	12	その他	131
岡崎大学	4	大東文化	8	私立大学合計	657
上野大学	6	拓殖大学	2	国公立短期大学	20
富山大学	4	川崎大学	4	国立新潟女子短	20
信州大学	3	中央大学	21	国公立短期大学計	20
静冈大学	2	津田塾大学	1	私立短期大学	2
京都大学	1	帝京大学	15	青山学院女子短	2
島根大学	1	東京経済大学	6	実践女子短	2
札幌医科大学	1	東京女子学院	3	東大短	3
高崎経済大学	4	東京電機	4	新潟青陵女子短	5
福島県立医科大学	1	東京理科大学	11	その他	6
首都大学東京	3	東洋大学	18	私立短期大学計	20
横浜国立大学	1	日本女子	51		
新潟県立大学	2	日本文学	4		
新潟県立看護大学	2	立教女子	5		
静岡国立大学	2	武蔵工業	30		
京都府立大学	1	蔵治	4		
神戸市立	1	明治	16		
その他	7	明治	12		
国公立大学計	149				

新課程入試初年度となる18年センター試験は志願者55万一、三八二人、受験者50万六、四五九人で、ともに3年連続前年割れの中で実施されました。私立大のセンター試験参加増や過去最高の現役志願率などで現役志願者は前年より1%増えましたが、浪人は16%近い大幅な減少となりました。大学入試センター発表の「平成18年度大学入試センター試験実施結果の概要」によると、今回初めて実施された注目の英語リスニングテストの平均点は36.3点(50点満点)で、筆記と合わせた英語の得点率は65.5%(200点満点換算で131.0点・業社算出)となり、前年より14.8点のアップ。英語の他、国語、数学Ⅱ・Bといっ

た基幹科目の平均点アップで、文系・理系の標準型Ⅰ・5(6教科7科目(90点満点))の平均点は文系型564.2点、理系型572.0点で、ともに前年より大幅にアップしました。国公立大のセンター試験(以下、セ試)科目は、国立大を中心に5(6)教科7科目(90点満点)が主体となっております。18年は国立大の約94%、募集人員で約7万五、〇〇〇人(入学生員に対する割合約78%)、公立大の約44%、募集人員で約五、八〇〇人(同、約24%)が5教科7科目以上を課すことになりました。平均点につきましては、国語は旧「I」科目、英語は「筆記リスニング」の得点率を基に200点満点

に換算して、それぞれ前年と比較しましたところ、文系標準型平均点(90点満点)Ⅱ国語十地歴十公民十数学2科目十理科1科目十外国語が、564.2点(前年より16.7点アップ)、理系標準型平均点(90点満点)Ⅱ国語十地歴・公民から1科目十数学2科目十理科2科目十外国語)が、572.0点(同、31.3点アップ)となりました。なおこの点につきましては、基幹科目の英語(プラス14.8点)、数学Ⅱ・B(プラス5.2点)、国語(プラス5.9点)のアップに加え、生物Ⅰ(前年マイナス11.1点↓プラス18.0点)、物理Ⅰ(同マイナス2.9点↓プラス13.4点)の大幅アップに対し、現代社会(同プラス12.9点↓マイナス12.3点)、地理B(同プラス

81点↓マイナス5.1点)の大幅ダウンが文系、理系それぞれの平均点アップの大幅な格差となって現れたと言えます。さてこのような状況に加え、新課程生初年度の入試、センター試験におけるリスニング導入、薬剤師養成コースにおける学部6年必修化と様々な変化を迎えるなか、本校の新卒生(Ⅱ現役生)は大健闘し、地元新潟大学への57名をはじめ、国公立大学には126名が合格という本校開学以来の成果を残してくれました。また私大入試では、上智1名・法政16名・明治10名・立教6名・早稲田4名・同志社4名・立命館9名の現役合格とここでも大いに健闘ぶりを見せてくれました。来年の平成19年度入試につきましては、国公立大学の後期日程廃止が更に進むことや、「隔年現象によるセンター試験の大幅な難化」など予断を許さない状況が待ち受けています。しかし受験生の諸君には、安易な教科絞込みや志望校の変更といった妥協をせずに、本校の伝統である「好學」の精神で、一刻も早くセンター試験および記述試験を含めた志望校対策を本格的なものにし、最後まで粘り強く学習を継続することで見事来春の栄冠を勝ち取ってもらいたいものと思います。

平成十八年度 明訓祭

『明訓魂』 翔けぬける風』

新校舎での二回目の明訓祭が、六月十日に盛大に行われました。準備や展示方法など、昨年の反省を踏まえ、また、準備期間が短いながらも生徒達は大変良く頑張っていました。やはり、最後の明訓祭になる三年生が下級生を引っ張っていくという雰囲気の中、準備が進められていきました。

全体の内容に関しては、例年と変わらず、教室展示部門十団体、教室演劇部門十一団体、前庭構築部門五団体、ステージ部門四団体、部活・委員会八団体の参加があった。その他では、一年生の書道・美術芸術選択者の授業作品展示、合唱コンクール、演劇部・合唱部・ダンス部・吹奏楽部の発表がありました。

こと、もっと皆で楽しみたいという気持ちがあることが考えられます。そんな中、やはり目立ったのが、三年生四クラス参加の「ステージ部門」でした。ストーリーから、衣装・音響・照明・演出など、どのクラスも本格的な発表で素晴らしいものでした。特に、三年二組の「Be alive」が全体的にまとまっており、今年度の明訓大賞を受賞しました。以下、各部門賞を紹介します。

☆教室展示部門 一年七組「ワールドカップ」 ☆教室演劇部門 二年五組「大奥」二ノ伍ノ乱 ☆ステージ部門 三年三組「エネミー」 ☆前庭構築物部門 三年十組「夢の時間」ピーターパンの時計台

最後になりますが、今年も多くの方々にお越しいただき誠にありがとうございました。来年度は、明訓中学校が新設され、また新たな明訓祭となりそうです。今後とも、ご声援をお願いいたします。



▲2年9組大壁画作品
『紅の豚』



◀中庭での垂小幕

修学旅行 学びの旅

今年の修学旅行は八月三十日から三泊四日の日程で実施されました。広島→京都と見学した四日間の行程は次の通りです。

- 第一日、新潟→広島
- 第二日、広島→京都 (大学訪問)
- 第三日、京都班別行動
- 第四日、京都→新潟 (クラス別行動)

初日は、広島市の原爆ドーム、平和公園を見学した後で、広島平和記念資料館において被爆体験講話を聴きました。約六十年前に実際に被爆された方のお話は、テレビや新聞だけでは伝わらない「原爆の悲しみ・平和への祈り」を肌で感じることができました。原爆投下時に、実際に町では何が起こったのか、自分はどういうようにして生き延びることができたのかを、私達にわかりやすく丁寧に説明して下さいました。生徒達は皆、熱心に耳を傾け、その切ない事実を素直に心に受け止めています。

二日目はクラス毎に三つのコースに分かれて、京都大学・大阪大学・広島大学をそ

れぞれ訪問しました。大学施設や研究室の見学、学部・学科の説明会、模擬講義、質問会など、各大学において、さまざまな取り組みが行われました。生徒達は学生達の生の言葉を聞くことができ、実際の大学の雰囲気を感じることができました。また、高度な施設を見学することができ、貴重な体験をすることができました。その他、広島大学コースでは厳島神社を、大阪大学コースでは大阪城、国立民族博物館を、京都大学コースでは大原三千院をそれぞれ見学し、世界遺産などを堪能していました。広島大学コースでは途中雨に降られる場面もありましたが、それも思い出の一つとなったことと思います。

三日目は、京都市内の班別自主行動日でした。二日目の夜から三日目の朝にかけて雨が降ったおかげで、三日目は涼しく班別行動をすることができました。生徒達は各班に分かれて市バスや地下鉄を利用して、金閣寺・銀閣寺・北野天満宮・清水寺・嵯峨嵐山地区などを回り、古都を思い

思いに満喫していました。
 四日目は、半日クラス別行動
 日で、生徒達はさまざまな体験
 や見学を楽しんで最後の半日
 を過ごしました。各コースは
 次の通りです。
 ・生八橋作り体験〜広隆寺コ
 ース
 ・清水焼絵付け体験〜清水寺
 コース
 ・霊山観音〜二年坂・三年坂
 〜清水寺〜東寺コース
 ・宇治・平等院〜伏見稲荷大
 社コース



旅行全体を通して、生徒達
 は皆、規律をしっかりとして、
 明訓生らしい自覚と誇りを持
 った立派な行動をしていまし
 た。日頃の学校生活では体験
 できないことを素直に受け入
 れ、バスガイドさんとの会話
 も楽しんでいました。宿の中
 では友人達と楽しい時間を過
 ごしていました。この貴重な
 経験を是非これからの人生に
 役立ててもらいたいもので
 す。

部活動報告

— 各科目覚ましい活躍 —

【運動部】

◎陸上部

《第56回中越陸上競技選手権大会
 5/3〜4 長岡市営陸上競技場》

一般男子

男子1000M

第1位 黒川 哲雄

第3位 中村航太郎

第5位 渡辺 正人

男子2000M

第2位 樋口 智彦

男子4000M

第1位 加藤 雅俊

第5位 駒田 俊

男子1100H

第6位 神田 大陽

男子走幅跳

第7位 渡辺 正人

一般女子

女子4000M

第1位 大竹恵里奈

女子4×1000M

第2位 リレー

(児玉・佐藤・大竹・西山)

《新潟県高等学校春季地区体育大会
 5/11〜13 新潟市陸上競技場》

男子

男子学校総合

第2位

男子トラック総合

第2位

男子2000M

男子2000M

第2位 加藤 雅俊

男子4000M

第1位 加藤 雅俊

第2位 中野 涼司

第4位 駒田 俊

男子8000M

第1位 中野 涼司

第7位 佐藤 辰巳

男子1100H

第2位 神田 大陽

男子4000H

第7位 小野 祐平

男子4×1000M

第1位 リレー

(高橋・中村・黒川・渡辺)

男子4×4000M

第3位 リレー

(関・加藤・樋口・小野)

男子走幅跳

第5位 渡辺 正人

女子

女子学校総合

第4位

女子トラック総合

第4位

女子1000M

第3位 佐藤 佑香

第6位 児玉奈央美

第7位 西山 睦美

女子2000M

第2位 西山 睦美

女子4000M

第3位 大竹恵里奈

女子3000M

第7位 中村 佳保

女子4×1000M

第1位 リレー

(児玉・佐藤・大竹・西山)

女子4×4000M

第6位 リレー

(西山・大竹・児玉・中野)

女子やり投げ

第7位 渡辺 夢菜

《新潟県高等学校総合体育大会
 陸上競技会 5/26〜28
 新潟市陸上競技場》

男子1000M

第1位 黒川 哲雄

男子4000M

第1位 加藤 雅俊

男子8000M

第1位 中野 涼司

男子4×1000M

第1位 リレー

(樋口・中村・黒川・渡辺)

男子4×4000M

第1位 リレー

(加藤・黒川・駒田・中野)

《北信越高等学校体育大会
 陸上競技大会 6/16〜18
 福井県運動公園陸上競技場》

男子2000M

第1位 黒川 哲雄

男子8000M

第1位 中野 涼司

男子4×1000M

第1位 リレー

(高橋・中村・黒川・渡辺)

男子4×4000M

第1位 リレー

第1位 (加藤・黒川・駒田・中野)

男子4000M

第4位 加藤 雅俊

女子4×1000M

第4位 リレー

(児玉・佐藤・大竹・西山)

《第22回日本ジュニア陸上競技
 選手権大会兼世界ジュニア陸上
 競技選手権大会選考会
 7/8〜9 高根県立
 浜山公園陸上競技場》

男子8000M

第1位 中野 涼司

男子2000M

第7位 黒川 哲雄

《新潟県陸上競技選手権大会
 7/21〜23新潟市陸上競技場》

一般女子

女子4000M

第1位 大竹恵里奈

女子7種競技

第1位 渡辺 夢菜

女子5000M

第7位 佐藤 夏海

女子やり投げ

第7位 渡辺 夢菜

女子1000M

第8位 佐藤 佑香

《平成18年度全国高等学校
 総合体育大会 8/2〜6
 大阪長居陸上競技場》

男子2000M

第3位 黒川 哲雄

男子4000M

準決勝進出 加藤 雅俊

男子8000M

第5位 中野 涼司

男子4×100M リレー 準決勝進出
 (高橋・中村・黒川・渡辺)
 男子4×400M リレー
 第2位 (駒田・黒川・加藤・中野)
 男子トラック総合
 第2位
 男子学校総合
 第4位
 《秋季新潟・下越地区
 体育大会 9/8~9
 新発田五十公野公園 陸上競技場》
 男子100M
 第1位 中村航太郎
 男子200M
 第1位 中村航太郎
 男子4×100M リレー
 第1位 (樋口・中村・関・渡辺)
 男子4×400M リレー
 (大滝・関・渡辺・中村)
 男子走幅跳
 第1位 渡辺 正人
 男子400M
 第2位 関 修人
 男子110H
 第2位 神田 大陽
 男子400H
 第3位 神田 大陽
 男子100M
 第3位 渡辺 正人
 他22名 県選抜大会出場権獲得

女子団体 優勝
 女子優秀選手 清水 里奈
 《春季新潟地区剣道大会
 5/9~10 分水総合体育館》
 男子団体 優勝
 男子個人 大澤 克平
 第2位 松林 理央
 男子個人 清水 里奈
 第2位 関川 友香
 第3位 玉虫ひとみ
 《第59回新潟県高等学校総合
 体育大会剣道大会 6/2~4
 三条市総合体育館》
 男子個人 高橋 優太
 第2位 (インターハイ出場)
 男子個人 松林 里央
 ベスト8 優勝
 男子団体 (インターハイ出場)
 女子個人 清水 里奈
 第1位 (インターハイ出場)
 女子個人 関川 友香
 ベスト8 堀 佳奈美
 ベスト9 佳奈美
 女子団体 第1位 (インターハイ出場)
 《第44回北信越高等学校
 剣道大会 6/16~18
 加賀市スポーツセンター》
 男子団体 優勝 7回目
 女子団体 優勝
 5年連続9回目
 女子個人

第2位 堀 佳奈美
 第3位 清水 里奈
 女子優秀選手 清水 里奈
 《平成18年度全国高校総体剣道大会
 7/30~8/5 京都府立体育館》
 女子団体 ベスト8
 女子優秀選手 関川 友香
 《若潮旗剣道大会(千葉)
 山内旗剣道大会(東京)
 8/15~18 千葉県
 館山運動公園体育館 東京武道館》
 女子若潮旗剣道大会
 女子団体 第2位
 女子優秀選手 大竹 静香
 女子優秀選手 斎藤 優
 《第21回全国校門旗争奪剣道大会
 8/22~23 とどろきアリーナ》
 女子団体 第3位
 《第27回北信越国民体育大会
 8/26~27 中野市民体育館》
 男子少年男子
 第1位 高橋 優太 (本国体出場)
 女子少年女子
 第1位 清水 里奈
 第1位 関川 友香 (本国体出場)

ベスト8 斎藤 優
 ◎野球部
 《第114回北信越地区高等学校野球
 大会新潟県大会 5/11~15
 鳥屋野運動公園野球場 他》
 第3位 夏の大会シード 権獲得
 《第88回全国高等学校野球
 選手権新潟大会 7/14~29
 鳥屋野運動公園野球場 他》
 準優勝
 ◎卓球部
 《春季新潟地区卓球大会
 5/7~8 新潟市体育館》
 男子団体 第9位
 男子個人 松木
 県大会出場
 ◎テニス部
 《春季下越地区テニス大会
 5/8~9 新発田五十公野
 公園テニスコート》
 男子シングルス 小鍛冶陽介
 ベスト16 (県大会出場)
 ベスト16 谷内田辰則 (県大会出場)
 《春季下越地区テニス大会
 5/8~9 胎内市国際
 交流公園テニスコート》
 女子シングルス 田村 葉月
 ベスト4 (県大会出場)
 ベスト16 吉田裕可里 (県大会出場)
 女子ダブルス 田村・榎並
 ベスト4 (県大会出場)

《下越地区1、2年生テニス大会
 8/3~4 新発田五十公野
 公園テニスコート》
 男子シングルス 北村 圭太
 ベスト16 小川 拓未
 男子ダブルス 坂田・漆山
 ベスト8 北村・小川
 ベスト8 斎藤・五十嵐
 ベスト8 三村・佐藤
 《下越地区1、2年生テニス大会
 8/3~4 胎内市国際交流公園
 テニスコート》
 女子シングルス 今井 沙希
 ベスト16 坂田・漆山
 《秋季下越地区体育大会
 テニス競技会 9/4~5
 新発田五十公野公園テニスコート》
 男子ダブルス 坂田・漆山
 ベスト8 (県大会出場)
 ベスト8 齋藤・五十嵐 (県大会出場)
 《秋季下越地区体育大会テニス
 競技会 9/4~5 胎内市
 国際交流公園テニスコート》
 女子シングルス 今井 沙希
 第3位 (県大会出場)
 女子ダブルス 今井・河村
 ベスト8 (県大会出場)

◎ハンドボール部
 《春季地区大会 4/29~30
 新潟明訓高等学校体育館》
 男子 優勝
 《県総体ハンドボール大会
 5/30~31》
 男子 第2位(北信越大会出場)
 ◎サッカー部
 《春季新潟地区サッカー大会
 5/11~13 新潟西高校・
 東京学館新潟高校》
 第3位
 《新潟県高校総合体育大会
 サッカー大会 5/31
 上越市宮陸上競技場》
 ベスト8
 ◎水泳部
 《下越地区水泳大会 5/30
 ウェルサンピア新潟》
 男子200Mバタフライ 悠一
 第5位 加藤 悠一
 男子200M自由形 悠一
 第5位 渡辺 倫堂
 男子200M平泳ぎ 樋山 瑛
 第1位 樋山 瑛
 男子100Mバタフライ 悠一
 第3位 加藤 悠一
 男子100M平泳ぎ 樋山 瑛
 第6位 樋山 瑛
 女子50M自由形 智世
 第14位 渡邊 智世
 《新潟県総合体育大会水泳大会
 6/23~25 長岡市営
 悠入山プール》
 男子200Mバタフライ 悠一
 第7位 加藤 悠一
 男子200M平泳ぎ 樋山 瑛
 第3位 (北信越大会出場)

- 〔北信越大会出場〕
 - 男子1000M平泳ぎ
 - 第3位 樋山 瑛
- 《新潟県秋季水泳大会》
 - 9/12 柏崎市アクアパーク
 - 男子1000M平泳ぎ
 - 第5位 樋山 瑛
 - 男子2000M平泳ぎ
 - 第2位 樋山 瑛
 - 男子4000M個人メドレー
 - 第7位 大久保智礼
- ◎バドミントン部
 - 《高校1、2年生(B、C級)バドミントン大会》 8/18 五泉市総合会館大ホール
 - 男子C級シングルス4組
 - 第2位 嶋津 龍弥
 - 男子B級ダブルス
 - ベスト8 安達・加野
 - ベスト8 篠宮・菅沼
 - 女子B級シングルス
 - 第1位 汐見 優華
 - ベスト16 小嶋 夏奈
 - 女子C級シングルス
 - ベスト8 斎藤 由貴
- ◎相撲部
 - 《新潟県高校総合体育大会相撲競技会》 6/4 新潟県立海洋高等学校
 - 個人戦80kg未満級
 - 第2位 鈴木 一寿
- ◎弓道部
 - 《県高校総体》
 - 弓道大会 6/22~4 県立三条商業高校弓道場

- 女子個人
 - 第2位 五十嵐 愛
 - (インターハイ出場)
 - 男子個人
 - 準決勝進出 関川 大輔
 - 準決勝進出 井澤 和弘
 - 準決勝進出 廣嶋 亮
- 【文化部】
 - 《新潟県高校春季囲碁大会》 5/20~21 敬和学園高校
 - 団体戦 男子 第2位
 - 女子 第2位
 - 女子個人
 - 第2位 加藤 亜希
 - (全国大会出場)
- ◎囲碁部
 - 《新潟県高校春季囲碁大会》 5/20~21 敬和学園高校
 - 団体戦 男子 第2位
 - 女子 第2位
 - 女子個人
 - 第2位 加藤 亜希
 - (全国大会出場)
- ◎放送部
 - 《第53回NHK杯全国高校放送コンテスト新潟県予選》 6/23 新潟市音楽文化会館
 - アナウンス部門
 - 第3位 白井愛希彩
 - (全国大会出場)
 - 朗読部門
 - 第3位 岡村 美里
 - (全国大会出場)
 - 奨励賞 村木 友香
 - ラジオODキュメント部門
 - 第1位 「歌は百葉の長」
 - (全国大会出場)
- ◎写真部
 - 《県高文連 写真専門部》
 - 第10回撮影大会 5/26~27 新潟会館
 - 新潟ユニゾンプラザ
 - 競技部門

吹奏楽部は現在一年生二十九名、二年生十八名の合計四十七名で活動しています。中学校から吹奏楽を経験している人、高校で初めて楽器を触った人など様々ですが、みな吹奏楽が大好きで楽しく一生懸命活動しています。また、「吹奏楽部である前に立派な明訓生であれ」をモットーに、服装、挨拶、返事、行動、学業など人間として成長できるように日々精進しています。

吹奏楽部の活動は全校集会の校歌演奏や、年に一回の明訓祭くらいしか披露する機会がありませんが、年間を通して多くの行事があります。そのいくつかをご紹介します。

七月・・・野球部応援

夏の甲子園に向けて野球部

奨励賞 天城 優

奨励賞 桜井里佳子

奨励賞 大嶋 玲奈

奨励賞 張替 雅史

《全国高等学校総合文化祭》 8/2~6 京都文化博物館

写真部門展

優秀賞 星 水規

吹奏楽部、同窓会総会で華麗なる演奏を披露

ととつて大切な大会。吹奏楽部はダンス部や応援団と一緒に野球部を応援しています。応援に使われる曲は毎年新曲を入れながら少しずつ入れ替え、どの学校も使っていないようなものになっています。毎年準々決勝からの応援では、野球部、ダンス部、応援団との呼吸もぴったりで、県内のどの学校にも負けない応援で球場を明訓一色に染めています。野球部の選手諸君はグラウンドで、我々はスタンドで「明訓らしさ」を存分に表現しています。ぜひ夏には球場においでください。

八月・・・吹奏楽コンクール

野球の応援が終わるとすぐにコンクールになります。このコンクールは年に一回開催される、吹奏楽部にとっては

◎書道部

《第11回全日本高校・大学生書道展》 8/22~27 大阪市立美術館

優秀賞 佐藤 臨

◎吹奏楽部

《新潟県吹奏楽コンクール》 8/5~6 上越文化会館

高等学校Aの部

銀賞



〔銀賞〕 第47回 新潟県吹奏楽コンクール 県大会
とき：2006年8月5日・6日 ところ：上越文化会館

一番大切な行事です。今年度から部員の増加に伴い高等学校Aの部(五十人編成)に出場しました。コンクールでは課題曲と自由曲の二曲を演奏しますが、曲は前年の秋には決定し練習に入ります。つまり二曲を約半年以上かけて仕上げていくこととなります。最後には賞で評価されますが、それ以上に、厳しい練習の中で多くの友人たちと支え合いながらがんばり抜いたことが一生の財産になっていき



「銀賞」 第47回 新潟県吹奏楽コンクール 県大会
とき：2006年8月5日・6日 ところ：上越文化会館

ます。
三月・・・定期演奏会
今年度は第十一回目の開催
となります。毎年音楽文化会
館ホールで行い、多くの皆様
にご来場いただいています。
演奏会ではさまざまな趣向を
凝らして自分たちを表現して
います。演奏を聴きに来てく
ださるお客さんのために心の
こもった演奏をしようとい

のが毎年の目標です。ステ
ジ構成、衣装、照明などすべ
てが手作りの演奏会です。今
年度は三月二十日の予定で
す。ぜひご来場ください。
近年入部してくる生徒が
とても多く、大変嬉しく思っ
ています。人数が多いために
楽器や練習場所が不足してい
ることが悩みですが、「工夫」
と「やる気」で乗り切つてき



第1走者
駒田 俊(3年)
決勝のレースが終わった瞬
間、メンバー全員泣き崩れた。

明訓に入学した時から「3年
で迎えるインターハイのマイ
ルリレーで日本一」を目標に
練習に励み、その想
いが込み上げてきた
からである。
決勝の前、今まで
にないプレッシャー
と緊張に襲われたが
「3年間この1本のた
めに頑張ってきたん
だ。やってきたこと
全てをぶつけて最高
の走りをしよう。」と
自分に言い聞かせ、
スタートに着いた。
結果は準優勝と目標
を果たすことはでき
なかつたが、ベスト
を尽くすことができ

陸上部 快挙、インターハイ 4×400mリレー 準優勝

ました。とかく自己表現が苦
手な現代の高校生ですが、吹
奏楽部員は「楽器」という自
己表現の手段を使って、技術
と感性を日々磨いています。
この度、新潟明訓高等学校

同窓会総会の場で演奏させて
いただくことになりました。
同窓会役員のみなさまを初め
としてお世話になりました
方々に深く感謝申し上げます。



たので悔いはない。

振り返ってみると、ここに
たどり着くまでの道程は平坦
な道ではなく、何度も目標を
投げ出しそうになった。しか
し、その度に支えてくれた人
達のおかげで頑張つてこれ
た。この過程を通して、今後
の人生にもつながる良い経験
ができ、自分自身が向上する
ことができた3年間でもあつ
たと達成感に満ちている。

最後にになりましたが、私た
ちを支え、応援して下さい
皆様、本当にありがとうございます。
明訓陸上競技部で
部活ができたことは最高の幸
せでした。

第2走者

黒川 哲雄(3年)

8月6日インターハイ最終
日。この学校に入学した時か

ら思い描いた夢を現
実にする日がやって
きた。その夢とは
4×400mリレー
でのインターハイ優
勝である。1年時に
は今と同じメンバ
ーでインターハイに
出場し予選落ち。2年
時は準決勝落ち。今
年こそはという気持
ちを全員がもってい
た。

前日の予選を県高
校新で通過し、この
日の準決勝でも理想
の展開で余力を残し
て全体の2番目の記録で決勝
へ進んだ。そして5日間に及
ぶ猛暑の中のインターハイの
最終種目が4×400mリレ
ーの決勝であった。走る直前
には色々な思いが込み上げて
きた。地区大会などで自分の
代わりに走ってくれたメンバ
ーのこと。わざわざ応援に來
てくれた陸上競技部の仲間・
家族のこと。そしてこのメン
バーで走るの最後だとい
うこと。決勝を走る前、迷いな
ど一切なかつた。4人みんな
がそうであつたと思う。

決勝は全員がすべてを出し
尽くし結果は準優勝。負けは
したが悔いはない。このメン
バーであの舞台で走れたこと
を誇りに思う。最高に楽し
かった。
最後になりましたが、ここ



た。

3年で迎えたインターハイ、個人の400mでは10位というところで残念な結果であったが本命のマイルリレーが控えており、すぐに気持ちを切り替えることができた。その予選は1着、準決勝は2着、遂に念願の決勝までたどり着いた。メンバーは3年間のすべてをここで出し尽くした。結果は全

国2位ということ、この日の全国制覇を目標にしてきただけに、レースが終わった後、全員泣き崩れた。インターハイ決勝というこれ以上ない最高の舞台で全員が一つになって最高の走りができたことは順位より自分にとって一生の宝物となった。ここまで導いて下さった先生方をはじめ、多くの皆様に感謝している。

まで育てて下さった両親、ご指導下さった金子先生、深瀬先生、菊池先生、応援してくださった多くの皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。ございました。

第3走者

加藤 雅俊 (3年)

今年で集大成となる3度目のインターハイに出場した。2年前はマイルリレーのみで出場し予選落ち、昨年は個人としては400m、そしてマイルリレーで出場したが、400mは予選落ち、マイルリレーは9位という結果であった。特にマイルリレーは私たちが1年の頃からインターハイで優勝することを目標にしていた為、決勝にあと一步のところまで残れないことで今年に懸ける想いがより強くなっ

第4走者

中野 涼司 (3年)

入学した1年時に、高校3年間の最終目標を個人ではなく、新潟県が

達成したことはないマイルリレーでの決勝への進出、そして更に全国制覇に設定し、スタートを切った。1年生の時は、初のマイルリレーということもあり緊張の連続の中で、何とかインターハイの切符を手にした。しかし、全国では予選落ち、自分たちの力の足りなさを痛感した。それからの1年間は厳しい練習に取り組み、インターハイでも準決勝にまで駒を進められるようになっていた。準決勝最終組が走るまで8番目のタイムで、夢の決勝に残れると思った矢先にわずかのタイム差で9位に転落し、勢いだけでは全国で勝負できないことを昨年、痛感した。

そして、今年、自分たちにとっては最後の年となった。



3年間の集大成の作品を存分に発表することが、優勝のためには絶対条件であった。予選・準決勝と快心のレースで通過をし、そして、最初で最後の決勝、全国の強豪達と戦い最高の作品を発表でき準優勝となることができた。目標であった全国制覇は結局、果たすことができなかったが、この3年間、目標に向かって

剣道部

四年ぶりに男女アベックで

インターハイ出場

剣道部 (男子)

高橋 優太

の日々は本当に多くのことを学ぶことができた。それぞれの歩む道が違うがこれからの人生に大きく役立っていくと思う。

最後に、ここまでご指導して下さいました先生、支えてくれた家族、また関わった全ての人たちに感謝している。本当にありがとうございました。

全国大会に出場するという

ことは、ここ数年出場権を逃している男子にとっては大きな目標であった。また自分たちが1年生の時から仲間と自分たちの代で必ず全国へ行こうと約束して頑張ってきたので、絶対に達成させなければいけない目標でした。しかし全国への道は簡単ではありませんでした。

自分たちの代のライバル校は自分たちを含め、どこも力が同じぐらいでどこが勝ってもおかしくなかった。その中で始まった選抜大会の予選は

った全国大会へ出場することができた。

全国大会に出場するという目標は達成したが、次は全国で上位を目指すことを目標に気持ちを切り換えて、今までよりさらに必死になって練習をし、北信越大会まで優勝することができた。そしてこれまでやってきたことに自信を持って臨んだ全国大会では、予選リーグで東奥義塾高校と磐田西高校と対戦。一試合目の東奥義塾高校に2-1でなんとか勝ったものの、二試合目の磐田西高校では全国という大きな舞台に一試合やっただけではなむことができずに1-3で負けてしまい、一勝一敗で予選リーグを突破することができなかった。決勝トーナメントへ進むことができなかつたので悔やしい気持ちはありましたが、悔いのないように思い切った試合ができたし、ここまでやってこれたことを誇りに思う。

このような結果を残すことができたのは、これまで先生や仲間を信じ、どんなに辛いことがあってもお互いを励まし合い、どんなことでも努力して、必死になってやってこれたからだと思う。そしてなによりも両親や先生方の支えがあったからだと思う。

これからの後輩たちには、仲間や先生のことを信じる気持ちと自分たちがやっている

ことに自信を持ち何事にも強
 気で立ち向かう気持ち、そし
 て自分たちを支えてきてくだ
 ったすべての人への感謝の
 気持ちを忘れずに、これから
 の練習を悔いの残こらぬよう
 必死にやってみてほしい。自
 分たち三年生もこの気持ちを
 忘れず、この剣道部で学んだ
 ことを将来に生かしていきたい
 と思う。



剣道部 (女子)

清水里奈

BSN大会準優勝。私達は
 去年の壁を破ることはでき
 ず、全国選抜大会へのキップ
 をのがしてしまいました。悔
 やしくて泣いたその日から、
 私達の気持ちはガラリと変わ

った気がします。「絶対勝ち
 たい!!」その気持ちが私達を
 支えてくれました。もちろん
 練習は一段と厳しくなりまし
 た。しかし、「絶対に勝ちたい
 !!」という思いを胸にみん
 なで精一杯、一生懸命練習に
 打ち込みました。苦しくなっ
 ても「あと一本!!」負けた悔
 しさを思い出して日々一本一
 本大切に稽古に励んでしまし
 た。そして、私達の「あと一
 本!!」は裏切りませんでした。
 最後のインターハイ予選で
 「男女アベック優勝」今までで
 最高に嬉しい瞬間でした。
 京都で行われるインターハイ
 予選リーグを抜ければ決
 勝トーナメントへと進むこと
 ができます。その予選リーグ、
 九州の強豪チーム佐賀県龍谷
 高校、そして去年のインター
 ハイで代表戦の末敗れた岐阜
 県中京高校との対戦となりました。
 正直、周囲では予選突
 破は難しいのでは...との評判
 でした。しかし私達は絶対に
 勝たなければいけない理由が
 ありました。チームのメンバ
 ーの一人が前日の練習でアキ
 レス腱断裂。一緒に試合がで
 きないという悔しさはもちろ
 ん私達にもありましたが、ケ
 ガをした本人が一番悔しかった
 と思います。だからケガをし
 した本人の分まで、絶対に悔
 いの残らないよう精一杯試合
 をしようと約束しました。メ
 ンバーの一人が出場できなく

なった今、一人一人の「勝つ
 んだ!!」という気持ちが大切
 だと感じました。結果、予選
 リング突破。決勝トーナメン
 ト1回戦、埼玉県淑徳与野高
 校に勝ち、準々決勝、山形県
 左沢高校と対戦し代表戦で惜
 しくも負けてしまいました。
 「全国ベスト8」。全国入賞に
 はあと一步届きませんでした
 が、私達はそれ以上の何かを
 得ることができたと思います。
 この2年半という長くも短
 くも感じた日々は確実に私達
 を成長させてくれたと思いま
 す。そして権瓶先生をはじめ、
 応援していただいた全ての
 方々、父兄の皆様、たくさん
 の日を共にすごした仲間達に
 心から感謝し、これからそれ
 ぞれの道に向かって歩んでい
 きたいと思えます。

弓道部 (女子)

五十嵐 愛

全国大会に出場というの
 は、自分では思ってもみない
 ことだった。だから、県大会
 で個人戦二位というの驚い
 た。「全国大会出場」という
 のは自分の目標ではなく、た
 だ漠然と「自分の力がどこま
 でいけるか」ということしか
 考えたことがなかった。そん
 な自分が全国にいけるとい
 うのは、とてもうれしかった。
 しかし、その反面、他の三年
 生の部員はだんだんと部活に
 来なくなり、受験勉強に気持
 ちを切りかえている中で自分
 はまだ部活を続けているとい
 うのが、残された感じがして
 不安だった。けれど目の前に
 ある課題にまずは目標を持つ
 て頑張ろうと思った。そして、
 二年生や一年生と一緒に長く
 部活が出来たことは、楽しい
 時間が過ごせ、また、とくに
 一年生に指導することが出
 来、上手になつていくのを見
 れたことが励みになった。
 大阪で行われた弓道の全国
 大会の会場は、練習会場が大
 きく雰囲気圧倒された。自
 分では、あまり感じられなか
 ったが、他県の選手が練習で
 的に矢をあてているのや、人
 の多さに影響されて気持ちも
 体も縮こまつてしまってい
 た。だから練習も思うように
 いかず、焦っていた。けれど、
 先生の言葉で自信を持って本
 番に臨むことができた。予選
 では、四射二中で準決勝に進
 むことは出来なかったが、県
 大会の時のように、自分の射
 をすることができてよかった。
 この全国大会で感じたこと
 とは、どんな場合であっても、
 自分を見失わず周りを気にし
 ないで、自分の思うことに自
 信を持つことが大事だと思っ
 た。

今は、二年生が中心になっ
 て部活をしているが、一、二
 年生の一人一人が小さなこと
 でも目標を持って練習をして
 ほしいと思う。私は個人戦の
 出場だったけれど、後輩には
 団体戦で出場してくれたらう
 れしい。一人で黙々と練習す
 るより切磋琢磨して、これか
 らの部活を過ごせたら、もっ
 と良い雰囲気のみんなができ
 ると思う。
 全国大会というのは、誰も
 が経験できることではないか
 ら、それを自分が出場し、見
 て感じたことは、とてもすば
 らしい経験だった。ここまで
 いったのは、後輩たち、去年
 の三年生の先輩方、先生方が
 いたからだ。そして、同じ学
 年の部員たちの存在が大きか
 った。ありがとうごさいまし
 た。
 三年間放送を続けて来て本
 当に良かった。
 全国大会に向かう新幹線の中、
 流れる景色に思い出を重ね、
 思った。
 良く分からないまま出場し
 た初めてのコンクールのあの
 何とも言えない興奮と緊張、
 そして喜び。これらを感じた
 あの瞬間、私は放送に魅せら
 れた。結果が出ず辞めてしま
 おうと部活をサポートしたこと

放送部 (女子)

岡村美里



一度や二度ではない。しかし私が放送を続けられたのは周りの人達の暖かさ、そして何より放送の楽しさにずっと浸りたかったからだ。今思うと、大会の舞台上、私の中には楽しさと喜びがなかった。こんなにも夢中にそして



朗読部門 第3位 岡村美里さん

唯一胸を張って誇れるものに出逢えた私の高校生活は「充実」という一言に凝縮される。これは私の高校生活の宝物となり、同時に私の人生における大きな礎となってくれるだろうと私は確信している。

放送部 (男子) 川崎拓也

僕たち放送部は、NHK高校放送コンテストに参加し、「歌は百薬の長」という作品を制作しました。この作品は、歌を歌うことが大好きな、九十才の水俣病患者の渡辺参治さん取材したもので、水俣病にめげず、自分らしく楽しく生きる参治さんの明るさを感じてもらいたくて制作したものです。結果は制作奨励賞でしたが、自分なりに納得のいく出来だったと思います。

毎日、知識や情報の受け手にまわることも多い中、自分た

ちから何かを発信する、ということの楽しさをもっとたくさんの人に知ってもらえたらな、と思っています。そして、今まで協力してくださったみなさん、どうもありがとうございました。

写真部 星水規

「私を決意させた全国大会」

写真部は夏休みの始まった8月1日から8月5日までの4泊5日の日程で第30回全国高等学校総合文化祭(京都総文)写真部門に参加しました。県代表作品として出品された私の作品「ラブ☆LOVE☆らぶ」は全国307点のうち、最優秀3点に次ぐ優秀賞7点の1点に選ばれました。この全国大会は全国総合文化祭ということもあって、京都の街ではパレードなどもあり、とても盛大なものでした。私達の参加した写真部門でも様々な行事がありました。中でも全国の写真部高校生が集まった「交流会」は印象的でした。

十人くらいの班に分かれ、京都についてのクイズ大会やビンゴ大会をしたり、各々が用意してきた自分の撮った写真を交換したり、普段全国の高校生と触れあう機会のない私達にとってとても新鮮で貴重

な体験をすることができました。その地方ならではの会話や訛があつて、話していて興味深いものがありました。北海道から沖縄までの自分と同じ年頃の高校生が撮った作品を見て感じたことは、やはり同じ年頃で、同じカメラで撮ったとしても、その人の伝えたい思いや感じ方が違うということだと思います。私はどんな大会に参加しても、人の写真や自分の写真を見ても、「そこが写真の魅力だなあ。」といったも感じていきます。全国から集まった300校の作品を見て改めて自分の表現したいものを自分らしく伝えていきたいと強く思いました。

講評会では京都出身の写真家の先生方にスクリーンに映し出された写真の一枚一枚を講評していただきました。今後の活動の参考になる話を聞くことができました。その後の講演会での写真家の榎並悦子さんの話しは、私が今まで聞いた講演会の中でも最も印象に残り、心惹かれるものでした。世界に目を向けて撮った数々の写真は、普段見ることのできないものばかりで圧倒されました。

この全国大会は自分の写真に対する考え方を広げることもできて、自分なりに写真を続けようという決意にもつながった貴重なものになりました。これからも人とのつながりが持て、自

分自身とも向き合え、そして自分を表現できる写真を通じていきたいと思っています。

囲碁部 (女子) 加藤亜希

碁は、黒白の石を交互に並べ地と石をいかに多く取るかを競う、中国から生まれたゲームである。日本に伝来すると平安時代の貴族の室内遊びとして広まり、現代では老若男女、実に多くの人々の間で碁は親しまれている。

長い時を経て碁が人々に愛され続けているのは、碁の持つ奥深さゆえだろう。近年では漫画の影響で子供の競技人口が増加し、碁を打つことによって集中力・発想力・判断力が高まる点は至る所で注目されている。そんな理由からか、メディアでも碁を取り上げる機会は少なくない。また、碁を通じての世代を越えたコミュニケーションの実現など、多方面で私たちが鍛えてくれることだろう。

これらのことから、少しでも碁に関心があるなら是非囲碁部に訪れてみてほしい。我が部の魅力は、活動日は水・金曜日だが気の向いたときにいつでも碁を打てる点。さらに、アットホームな雰囲気の中で初心者でも気軽に安心し

て学べる点だ。また、部内には碁を熱心に取り組む人が多いので、全国大会出場は決して夢の話ではない。よって、これからも一・二年生には頑張ってもらいたいと思う。

さて、ここで全国大会について触れたいと思うが、今大会は八月上旬に京都のパルスプラザで開催された。私は県内の他校の選手一名と組み、団体戦選手の一員として大会に出場した。多くの強豪選手がいる中、全力で対局に臨んだが、全国という大きな舞台で結果を残すことができず悔しい思いをした。しかし、対局後に意見交換を通じて他県の選手と交流ができたことや、碁の見識を深められたことに今大会出場の大きな意義を感じた。

前にも述べたが、碁はやはり奥深い。私は碁を通じて、心の中で相手と対話しているような気分になれる。また、碁盤の中に無限の広がりを感じる事ができる。碁を打つたびに、新しい発見が見つかる。そのことが、私が碁を打つ理由なのかもしれない。まだまだ力不足で学ぶことが多々あるが、これからも碁を打ち続けていきたいと思う。最後になったが、今までご指導してくださった先生方、共に切磋琢磨した囲碁部の仲間たちに心から感謝の思いを伝えたい。本当にありがとうございました。

終身会費納入者御芳名

平成十八年八月三十一日現在

(敬称略)

平成十七年卒

全日制56回

1組(1名)

村山拓郎

3組(1名)

大橋将実

4組(1名)

渡辺真理子

8組(1名)

館川理絵

9組(2名)

松崎卓弥

三浦恵

10組(1名)

馬場聡美

平成十八年卒
全日制57回

1組(34名)

安宅大心

阿部絵美

伊藤かずみ

井端麻衣

植木和輝

岡本華子

尾田秀幸

風間彩香

加藤翔太

桑原崇

桑原優子

小林沙和子

斎藤真志

斎藤勇希

坂井孝太郎

笹川夕香里

高塚史彦

高橋一樹

武田朋実

田澤司

田中研人

田邊奈津希

田邊奈津希

頓所あやめ

中山知美

梨本耕生

藤島善太郎

帆苅望

帆苅望

細井友絵

森本真美

矢部綾加

山縣淑美

山下拓也

山本愛由美

吉田麻利恵

2組(37名)

阿部圭介

伊藤綾那

伊藤則子

今井裕登

内田満

遠藤寛生

大津優

尾崎真由

清野有紀

串野碧

窪田葉月

桑野佳

小池大輔

小出春佳

古田愛

後藤かおる

杉野拓馬

曾根康文

武田絵里

竹田智美

田邊梨恵

谷川洸平

中野ひとみ

中村希

中村光伯

梨本太一

野本真佑子

樋宮僚

平井愛美

星野天則

前田光洋

松澤智子

三好花奈

八幡一哉

吉田大輝

渡辺一磨

渡辺健太

3組(32名)

浅生田歩美

阿彦佑樹

荒井なぎさ

伊藤拓也

牛田伸幸

内川敦希

大杉祐太

大橋俊樹

大桃美穂

荻野沙織

小倉千弘

小野沢恵美

小野沢恵美

神田美紀子

小林美茜

小林恵美

斎藤智史

佐藤育子

4組(40名)

相澤寛行

間めぐみ

荒木隆佑

五十嵐彩乃

石川貴英

大坂かずみ

大島壮郎

長田翼

小野沢恵美

小野沢恵美

加藤詩織

上村俊昭

刈谷貴之

小出初美

小松麻樹

近藤正輔

坂上真紀

佐藤智大

佐藤智大

鈴木枝里子

鈴木枝里子

鈴木枝里子

鈴木枝里子

鈴木枝里子

鈴木枝里子

鈴木枝里子

塩田竜太郎

5組(42名)

青木舞良

阿部隼也

池田尚浩

石山尚浩

海老翔太

遠藤直也

大原祥矢

大原祥矢

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

小田さとみ

金子慶

6組(34名)

木津愛

桐生恵理

栗林豊

栗山瞳

小林立香

小林明日香

小林立香

飯野大典

五十嵐大典

石原美之

市村拓磨

宇田雄介

大島良太

小川裕香

小川裕香

奥村春香

金田裕也

樺澤弘之

高橋瑞貴

関口由佳

鈴木直人

佐野賢直

佐々木幸奈

櫻澤幸奈

宇田雄介

坂村拓磨

市村拓磨

山崎慶太

7組(45名)

山本あゆみ

吉沢直子

浅間舞未子

阿部夏希

飯島直人

五十嵐純郎

石崎純郎

内山大夢

大坂理人

嘉瀬宏子

河内温

菊田英里

木伏英里

小泉孝史

幸田一紀

小戸田紋郁

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

佐藤綾乃

豊島崇

8組(45名)

中村俊幸

成澤亜紀

長谷川太一

長谷川太一

弘田詩織

船越信行

細海友理

細海友理

丸山真里恵

石崎純郎

宮内称

森川陽平

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

八木葉月

小倉由佳

青野 瞳	9組 (43名)	渡邊 俊	若槻 和人	若月 瑛樹	若井 裕樹	吉崎 大樹	山本 俊輔	村田 修一	宮田 真理	本間 拓真	古川 貴大	梨本 理恵	仲村 亜矢子	塚本 浩之	近松 侑可	瀧 恵美	高橋 健太	鈴木 景子	鈴木 絢子	新保 樹	寒河江 みなみ	齋藤 暁	根田 和明	小松 文音	小林 右龍	小林 卓哉	小林 花衣	桑原 直輝	金子 瞬弥	笠原 可奈子		
長谷川 直隆	野村 香織	長澤 裕美	豊田 直樹	角田 麻祥子	田中 雄基	隅田 賢正	砂原 駿	鈴木 祐子	鈴木 崇博	鈴木 真司	鈴木 純平	佐藤 弘樹	佐藤 麻美	坂井 龍一	坂井 瑞佳	駒澤 祐樹	小林 美智恵	小林 拓也	小出 隆之	木竜 雄一郎	杵淵 亜美	北村 徹也	鳴居 俊明	大桃 宏之	大塚 乃理子	上ノ山 雄太	稲垣 大應	磯部 健一	石塚 夏海	五十嵐 智子	五十嵐 千明	
高橋 俊作	曾我 恒太	鈴木 優大	渋谷 佳紀	佐藤 美碧織	坂井 美碧織	齋藤 誠	近藤 光	小林 竜也	小島 美奈	久保田 直樹	神田 まどか	川瀬 正慶	兼子 泰一	小川 泰文	大竹 祐樹	太田 弘毅	大崎 まどか	遠藤 由佳梨	板谷 昌司	阿部 啓介	赤澤 史顕	10組 (43名)	渡邊 まどか	吉川 巴	森川 亮	村尾 由貴	又賀 哲郎	前田 喜美	本間 梨恵	本間 優也	本多 恵也	
多田 遥	菊地 春菜	石橋 亮	3組 (7名)	福島 智子	富樫 祥子	2組 (2名)	原 聡子	野口 康彦	棚橋 岳大	大島 孔司	1組 (4名)	阿部 未加子	4組 (1名)	津野 友彰	田中 麻依子	中野 友彰	富樫 萌	渡辺 辰洋	宮波 洋輔	松澤 裕美	9組 (2名)	栗賀 夢衣	佐藤 翔	7組 (2名)	羽豆 竜太	西片 純基	富川 多佳子	寺見 明久	辻川 真希	千葉 大輔	棚橋 怜生	高橋 勇人

年会費納入者
御芳名(敬称略)

平成十七年度
会費納入状況

◎終身会費
全日制56回生 7名
三五、〇〇〇円

全日制57回生 395名
一、九七五、〇〇〇円

会務報告

◎年会費
全日制57回生 19名
一九、〇〇〇円

◎入会金
本年入学者 441名
四四一、〇〇〇円

◎合計
二、四七〇、〇〇〇円

一、会議
(一)総会
平成17・10・20(木) 18:30
於 ホテル新潟

(二)常任委員会
平成18・6・26(月) 18:30
於 ホテル新潟

(三)正副会長会議
平成17・10・12(水) 18:30
於 新潟会館

平成18・9・19(火) 18:30
於 ホテル新潟

平成18年度同窓会総会に向けて協議

平成18・2・16(木) 18:30
於 新潟東急イン

平成18・9・9(土) 18:00
於 大阪多幸梅

関西新潟明訓会創立15周年総会
児島副会長出席、伴理事長、宮沢校長出席

同窓会総会運営について協議
首都圏新潟明訓会総会について
平成17・12・7(水) 18:30
於 鳥梅西掘店

同窓会総会についての反省会
平成18・2・16(木) 18:00
於 新潟東急イン

同窓会歓迎会及び卒業式について協議
平成18・6・5(月) 18:30
於 新潟会館

常任委員会開催について協議
平成18・8・28(月) 18:30
於 新潟会館

常任委員会・総会開催について協議

二、その他
平成17・11・20(日) 13:00
於 銀座日航ホテル

首都圏新潟明訓会総会・懇親会
が開催され、渡辺会長、児嶋・平野副会長の3名出席
平成18・2・16(木) 18:30